

福生市 市政世論調査報告書

<概要版>

令和3年11月

●調査目的

本調査は、福生市民の定住意識や生活環境などに対する評価、市政の各分野についての意向などを把握し、今後の市の取組や行政施策の参考資料にすることを目的として実施しました。

●調査の実施状況

実施時期	実施方法	対象者数	回収数
令和3年6月29日から 令和3年8月15日まで	郵送配付 郵送回収	住民基本台帳から層化三段比例割当抽出した 福生市在住の満18歳以上の個人2,000人 (令和3年6月1日基準日)	867票 43.4%

●調査項目

本調査の調査項目は、以下のとおりです。

調査項目
定住意識と住みやすさ／福生市の魅力と将来像／市民と市政／イベント・観光／防災・防犯対策／消費生活／横田基地／環境問題／福祉社会／生涯学習／市の情報発信／行財政改革／市民活動／男女共同参画／多文化共生／ご回答者様について

●本報告書を読む際の留意点

- 図表中の「n」は、その設問への回答対象数を表しています。
- 図表中の数値は、特に断りのある場合を除き、いずれも回答率(%)を表示しています。
- 回答率(%)は小数点以下第一位までを表示しています。したがって、その合計値が100.0%にならない場合があります。
- 回答には、単数回答と複数回答があり、複数回答は、回答率が100.0%を超える場合があります。
- 図表のタイトル及び回答の選択肢は、調査票の表記から簡略化して表現している場合があります。

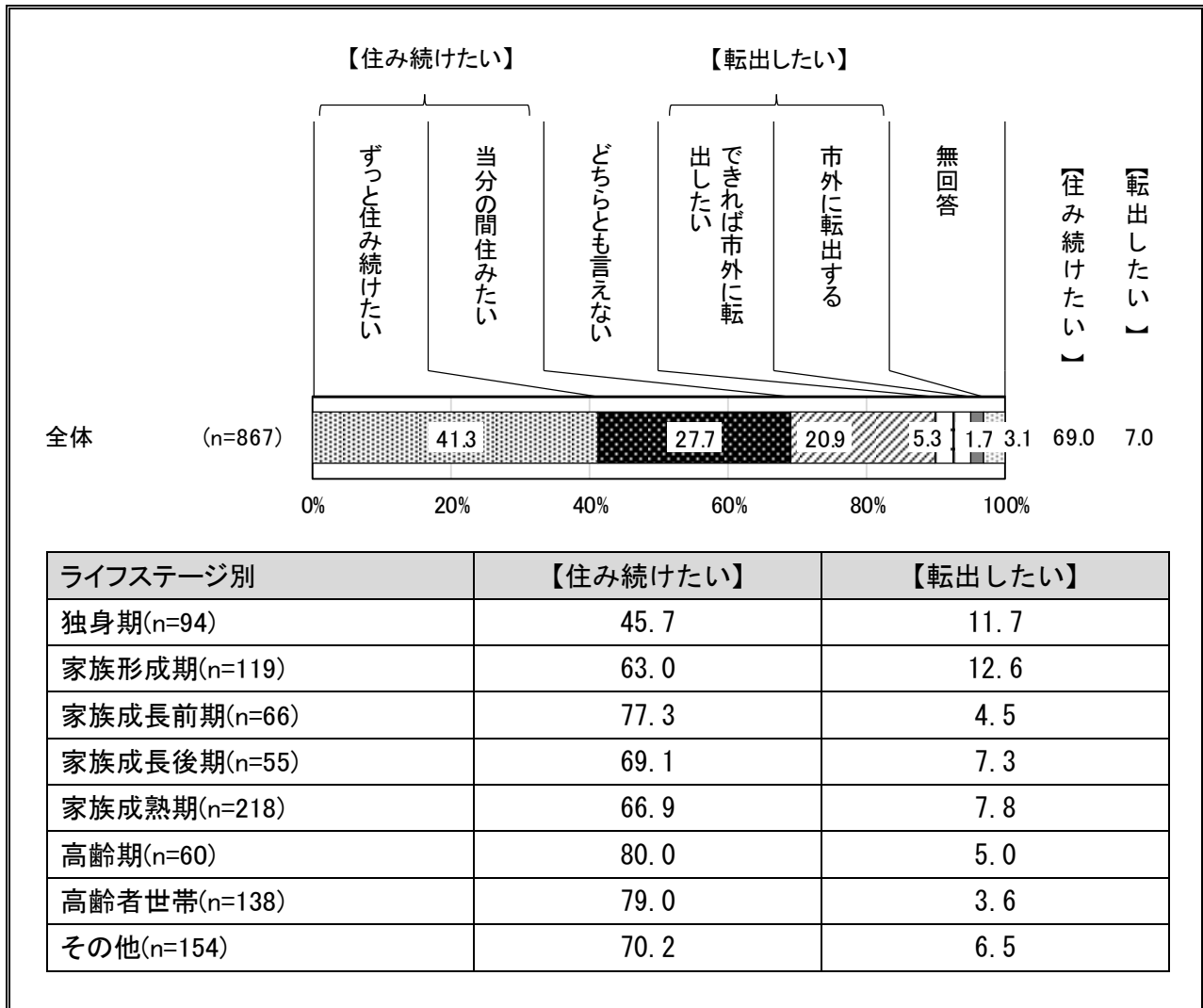
●ライフステージ別集計について

ご回答いただいた回答者の属性から、以下のようにライフステージを分類しています。

独身期	: 学生、10代～30代・独身・一人暮らし、親と同居の独身(10代～30代)
家族形成期	: 子どものいない夫婦(10代～30代)、一番上の子は未就学児
家族成長前期	: 一番上の子は小学生～中学生
家族成長後期	: 一番上の子は高校生以上の学生
家族成熟期	: 一番上の子は独立、40歳～64歳・全員が独立、夫婦のみで住んでいる(40歳～64歳)
高齢期	: 子どもと同居(65歳以上)
高齢者世帯	: 65歳以上・夫婦のみ(子どもと別居)、高齢者のみ(65歳以上)
その他	: 40歳～64歳・独身・一人暮らし、40歳～64歳・独身・親と同居(子どもはいない・子どもとは同居していない)、その他

●定住意識と住みやすさ

定住意向



<調査結果>

定住意向について聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(41.3%)が4割以上と最も高く、次いで、「当分の間住みたい」(27.7%)、「どちらとも言えない」(20.9%)となっています。

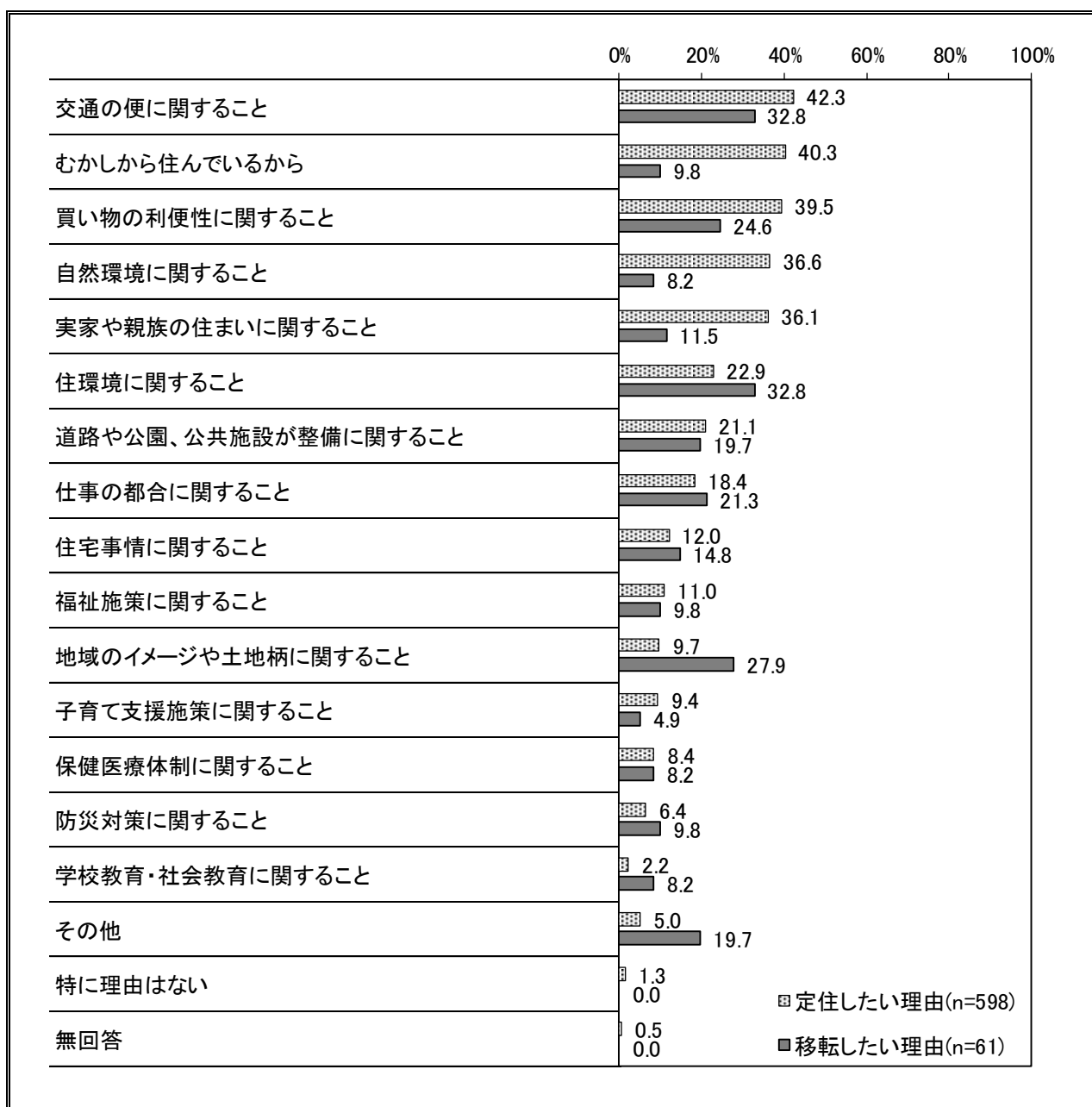
【住み続けたい】(69.0%)が6割後半となっており、【転出したい】(7.0%)が1割未満と、【住み続けたい】が大きく上回っています。

<属性別調査結果>

定住意向についてライフステージ別に見ると、【住み続けたい】の割合は、高齢期(80.0%)が最も高く8割となっています。また、家族成長前期(77.3%)、高齢者世帯(79.0%)が7割後半となっています。

【住み続けたい】は、高齢期(80.0%)が8割、高齢者世帯(79.0%)が7割後半とライフステージが高齢の方の定住意向が特に高くなっています。

定住したい理由・移転したい理由の比較



<調査結果>

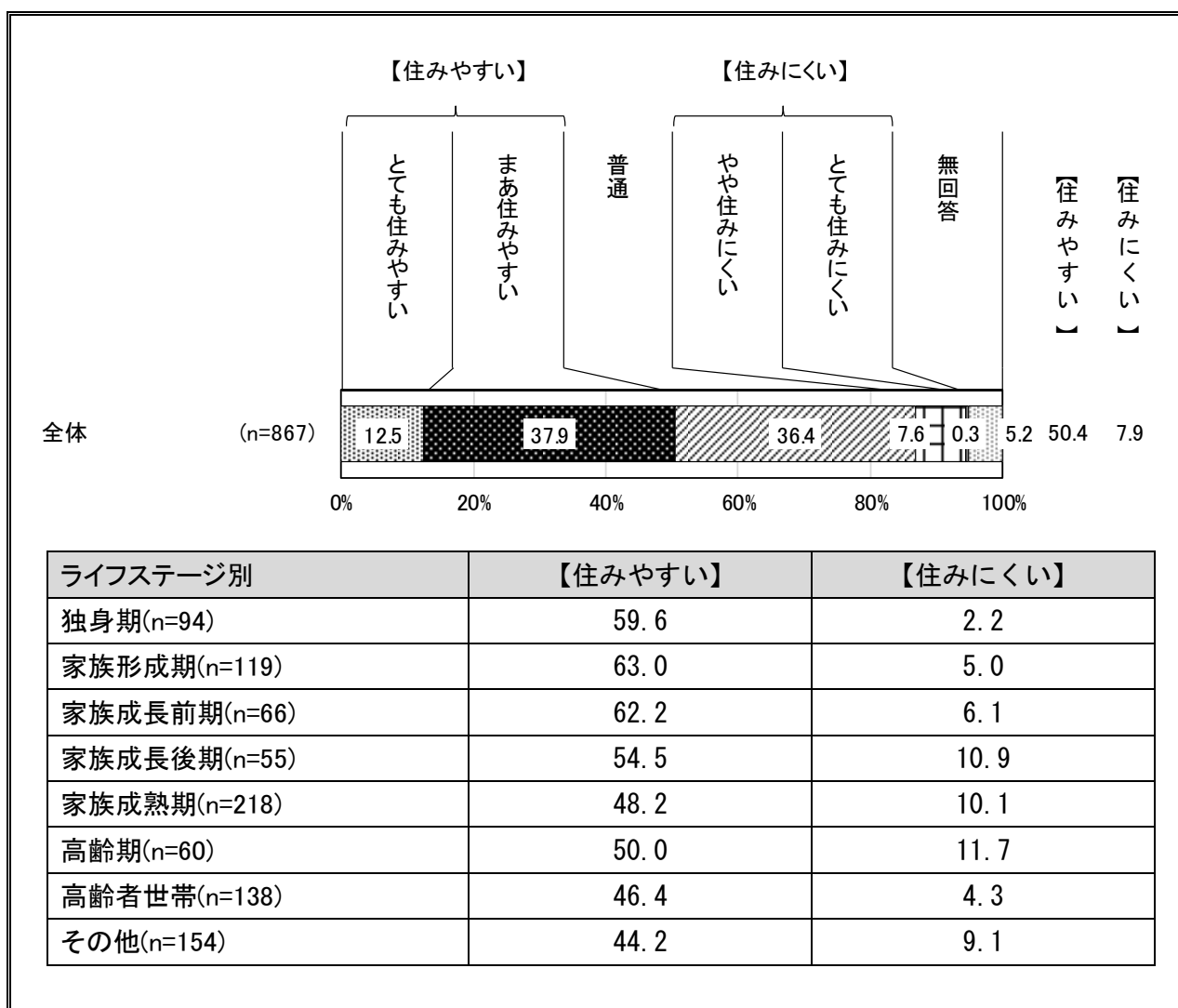
定住したい理由について聞いたところ、「交通の便に関する事」(42.3%)が4割以上、「むかしから住んでいるから」(40.3%)、「買い物の利便性に関する事」(39.5%)が約4割となっています。

移転したい理由について聞いたところ、「交通の便に関する事」(32.8%)、「住環境に関する事」(32.8%)が3割以上となっています。

移転したい理由が定住したい理由を大きく上回っているのは「地域のイメージや土地柄に関する事」で18.2ポイント差となっています。

「交通の便に関する事」、「買い物の利便性に関する事」は、定住したい理由として上位にある一方で、移転したい理由としても上位にあり、同じ市内でも地域ごとに感じ方が異なる部分であると想定されます。

住みやすさ



<調査結果>

住みやすさについて聞いたところ、「まあ住みやすい」(37.9%)が3割後半と最も高く、次いで、「普通」(36.4%)、「とても住みやすい」(12.5%)となっています。

「とても住みやすい」(12.5%)と「まあ住みやすい」(37.9%)を合計した【住みやすい】(50.4%)が約5割となっています。

<属性別調査結果>

住みやすさについてライフステージ別に見ると、【住みやすい】の割合は、家族形成期(63.0%)が最も高く6割半ばとなっています。次いで、家族成長前期(62.2%)が6割以上となっています。一方で、その他(44.2%)が最も低く4割半ばとなっています。家族成熟期(48.2%)、高齢者世帯(46.4%)も5割未満となっています。

【住みやすい】は独身期(59.6%)、家族形成期(63.0%)、家族成長前期(62.2%)といったライフステージが若年層で高い割合を示しています。一方で、家族成熟期(48.2%)、高齢期(50.0%)、高齢者世帯(46.4%)といったライフステージが高齢になると割合が低下する傾向を示しています。

地域の生活環境評価の相関分析

住みやすさと、地域の生活環境評価の各項目について相関係数を算出し、地域の生活環境評価の各項目と市の住みやすさの関連を分析します。

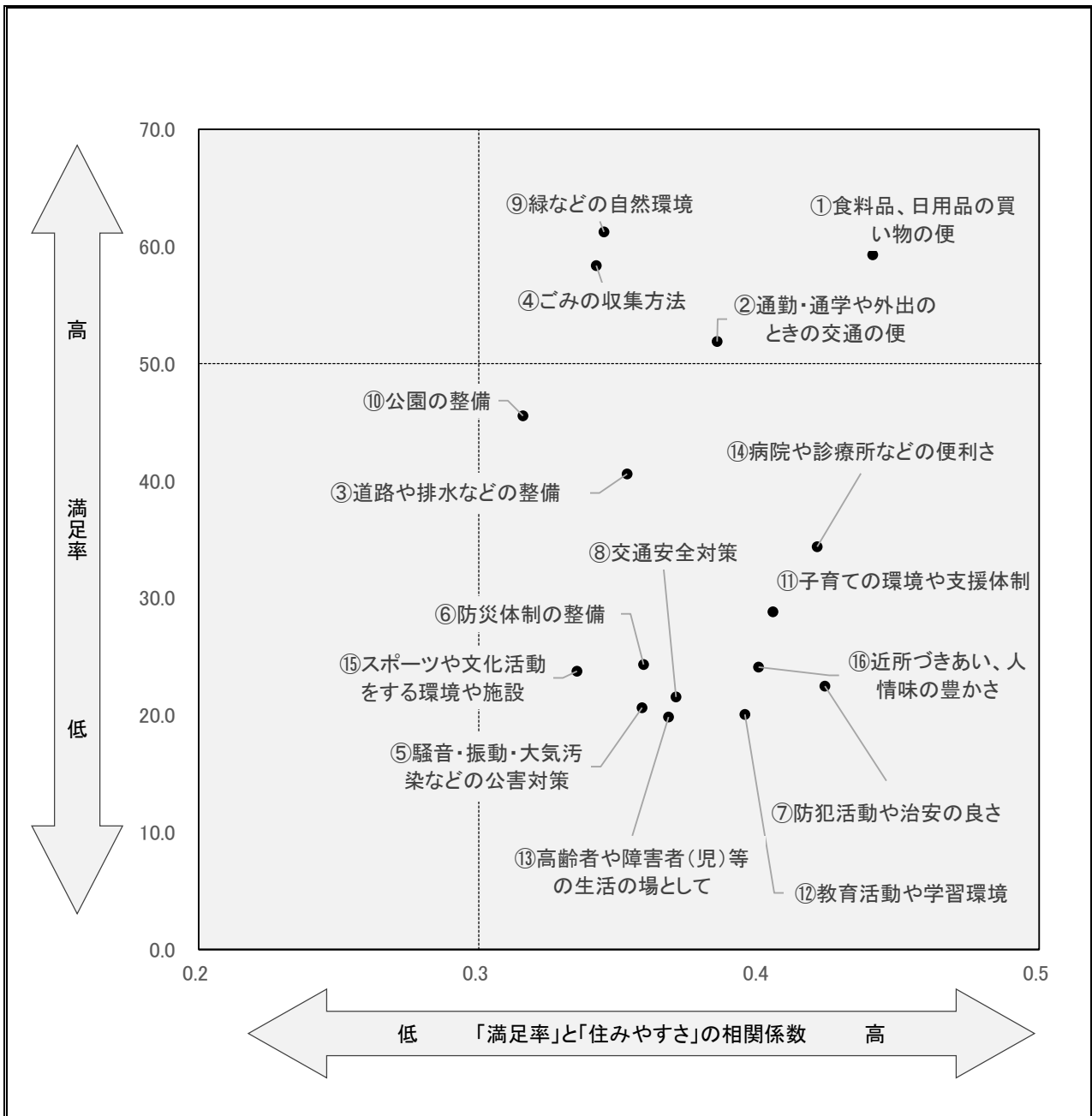
○相関係数について

相関係数：2つのデータがどれだけ関連性があるのかを示す係数で、 $-1 \sim +1$ の間の数値となります。関連性が強ければ1に近づき、低ければ0に近くなります。おおむね、「0～0.3未満」：ほぼ無関係、「0.3～0.5未満」：ゆるやかな相関、「0.5～0.7未満」：相関がある、「0.7～0.9未満」：強い相関、「0.9以上」：非常に強い相関とされています。

○各項目の相関係数と満足率

項目	相関係数	満足率
①食料品、日用品の買い物の便	0.44	59.3
②通勤・通学や外出のときの交通の便	0.39	51.9
③道路や排水などの整備	0.35	40.6
④ごみの収集方法	0.34	58.4
⑤騒音・振動・大気汚染などの公害対策	0.36	20.6
⑥防災体制の整備	0.36	24.3
⑦防犯活動や治安の良さ	0.42	22.5
⑧交通安全対策	0.37	21.6
⑨緑などの自然環境	0.34	61.2
⑩公園の整備	0.32	45.6
⑪子育ての環境や支援体制	0.41	28.8
⑫教育活動や学習環境	0.40	20.1
⑬高齢者や障害者(児)等の生活の場として	0.37	19.8
⑭病院や診療所などの便利さ	0.42	34.4
⑮スポーツや文化活動をする環境や施設	0.34	23.8
⑯近所づきあい、人情味の豊かさ	0.40	24.1

※満足率は、各項目の「とても満足」「まあ満足」の割合の合計となります。



<調査結果>

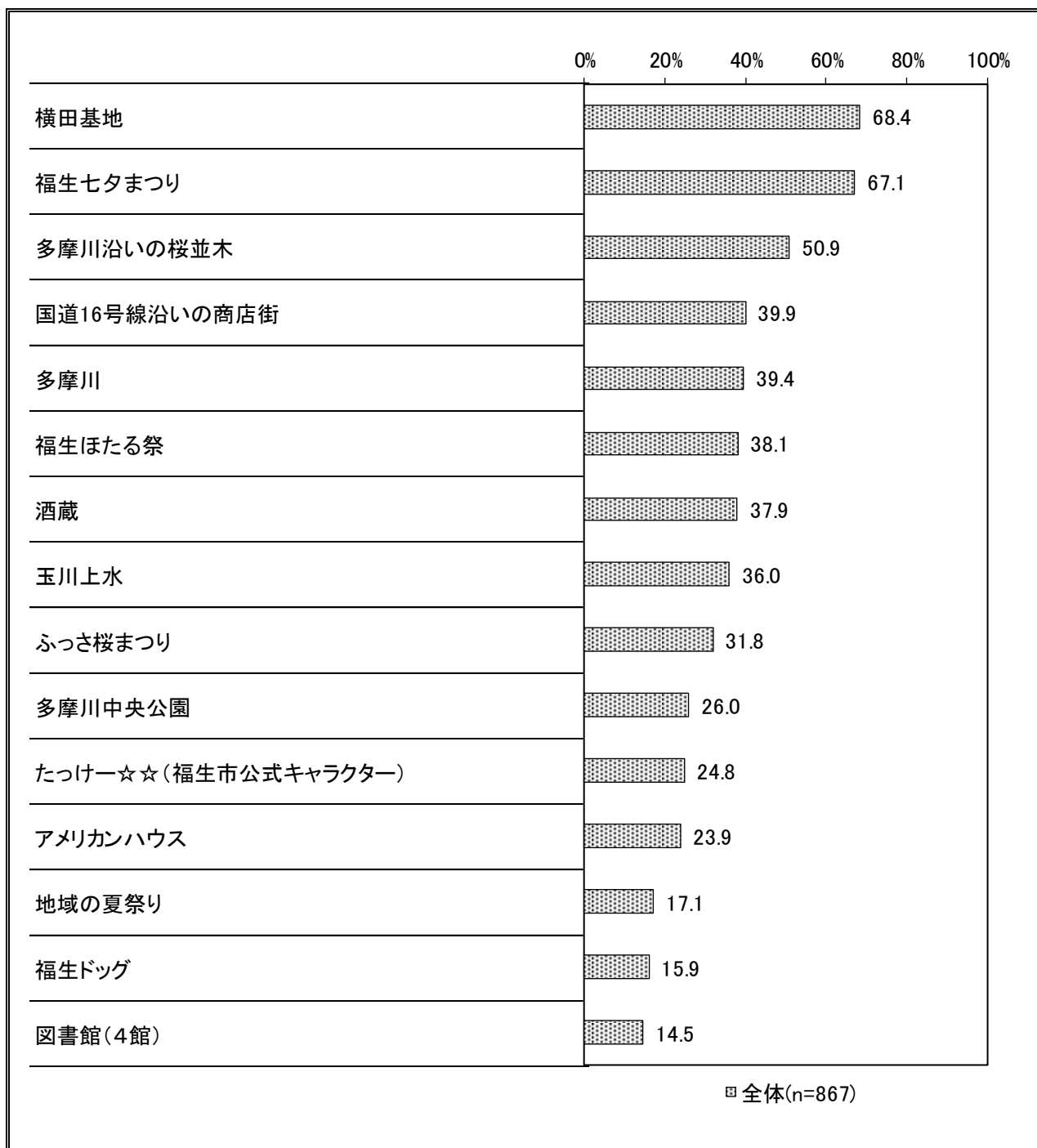
住みやすさと地域の生活環境評価の各項目について相関係数、地域の生活環境評価の各項目の満足率を基に散布図に示すと、上記のようになりました。

全ての項目で相関係数が0.3以上とゆるやかな相関が見られます。

その中でも、「①食料品、日用品の買い物の便」「⑦防犯活動や治安の良さ」「⑪子育ての環境や支援体制」「⑫教育活動や学習環境」「⑭病院や診療所などの便利さ」「⑯近所づきあい、人情味の豊かさ」の相関係数は0.4を超えており、これらの満足率が向上することで、住みやすいと感じる方がより一層増加する可能性があると考えられます。

●福生市の魅力と将来像

福生市らしさや魅力（上位15項目）

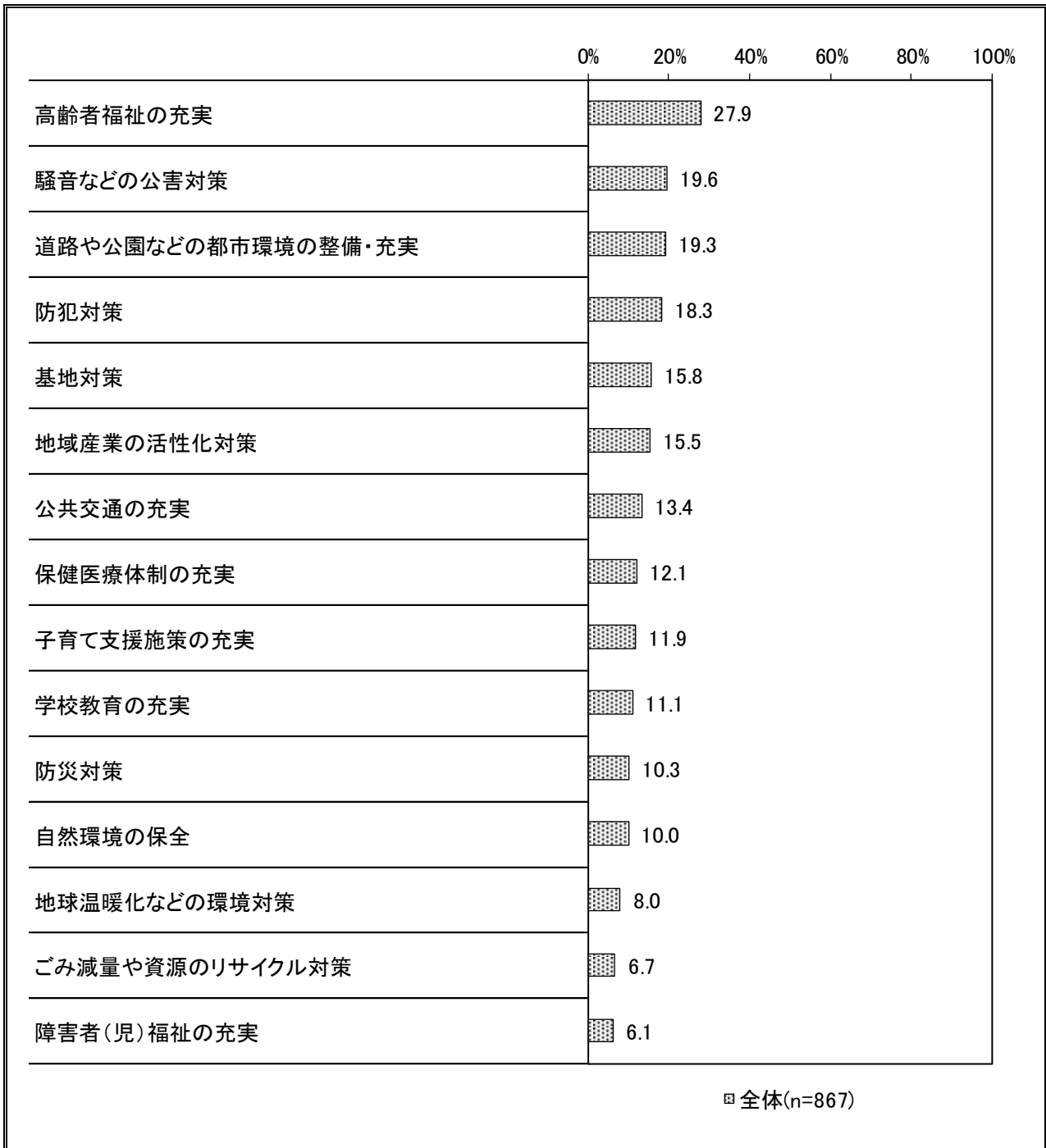


<調査結果>

福生市らしさや魅力について聞いたところ、「横田基地」(68.4%)、「福生七夕まつり」(67.1%)が6割後半、「多摩川沿いの桜並木」(50.9%)が約5割となっています。

●市民と市政

特に力を入れて欲しい施策（上位15項目）

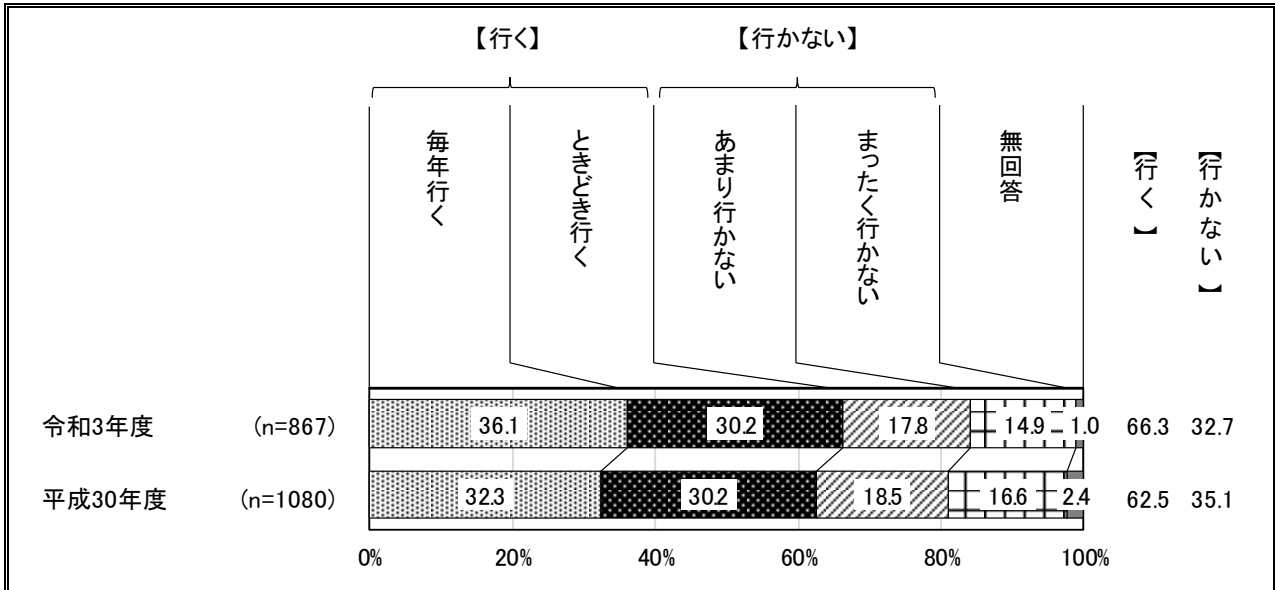


<調査結果>

特に力を入れて欲しい施策について聞いたところ、「高齢者福祉の充実」(27.9%)が最も高く2割後半、「騒音などの公害対策」(19.6%)、「道路や公園などの都市環境の整備・充実」(19.3%)が約2割となっています。

● イベント観光

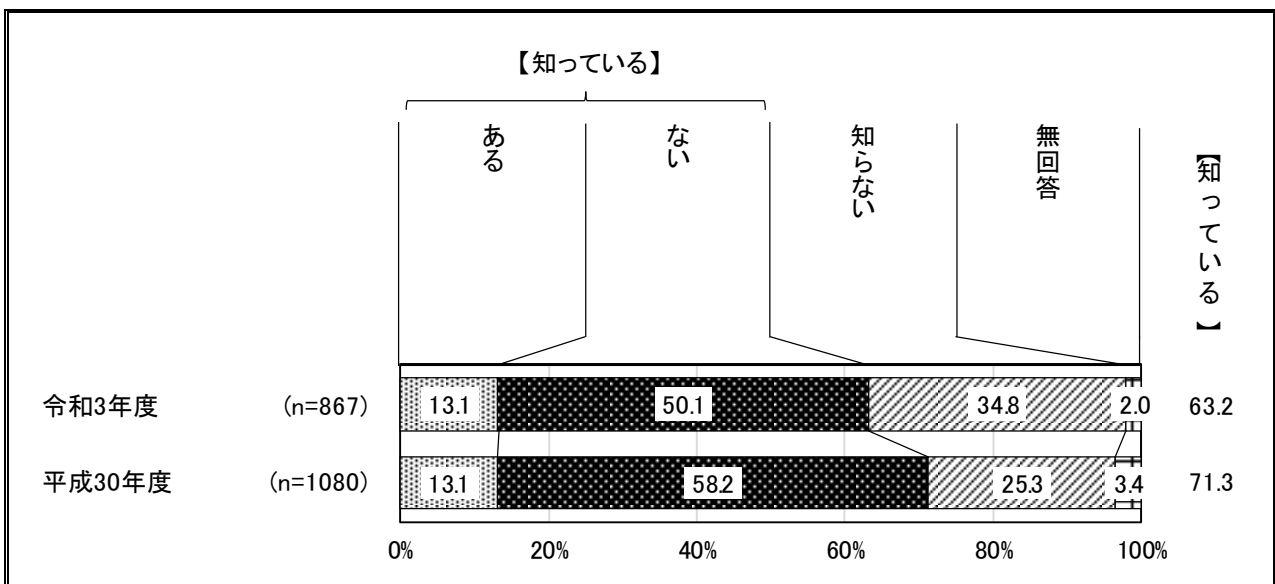
福生七夕まつりへの参加状況



<調査結果>

福生七夕まつりへの参加状況について聞いたところ、【行く】(66.3%)は【行かない】(32.7%)を大きく上回っています。

「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用状況

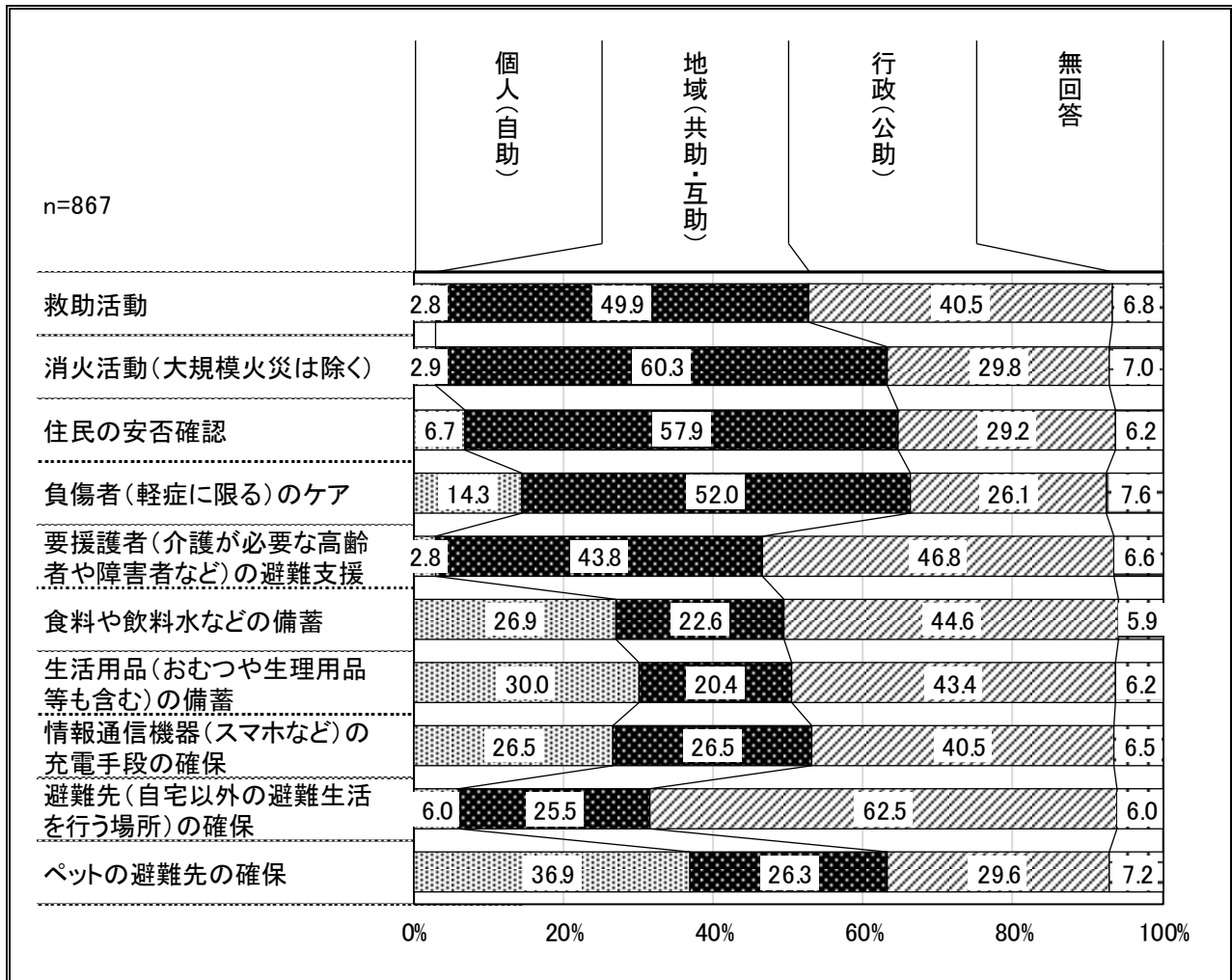


<調査結果>

「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用状況について聞いたところ、「ある」(13.1%)と「ない」(50.1%)を合計した【知っている】(63.2%)が6割半ばとなっています。

●防災・防犯対策

防災対策や災害発生時の役割



<調査結果>

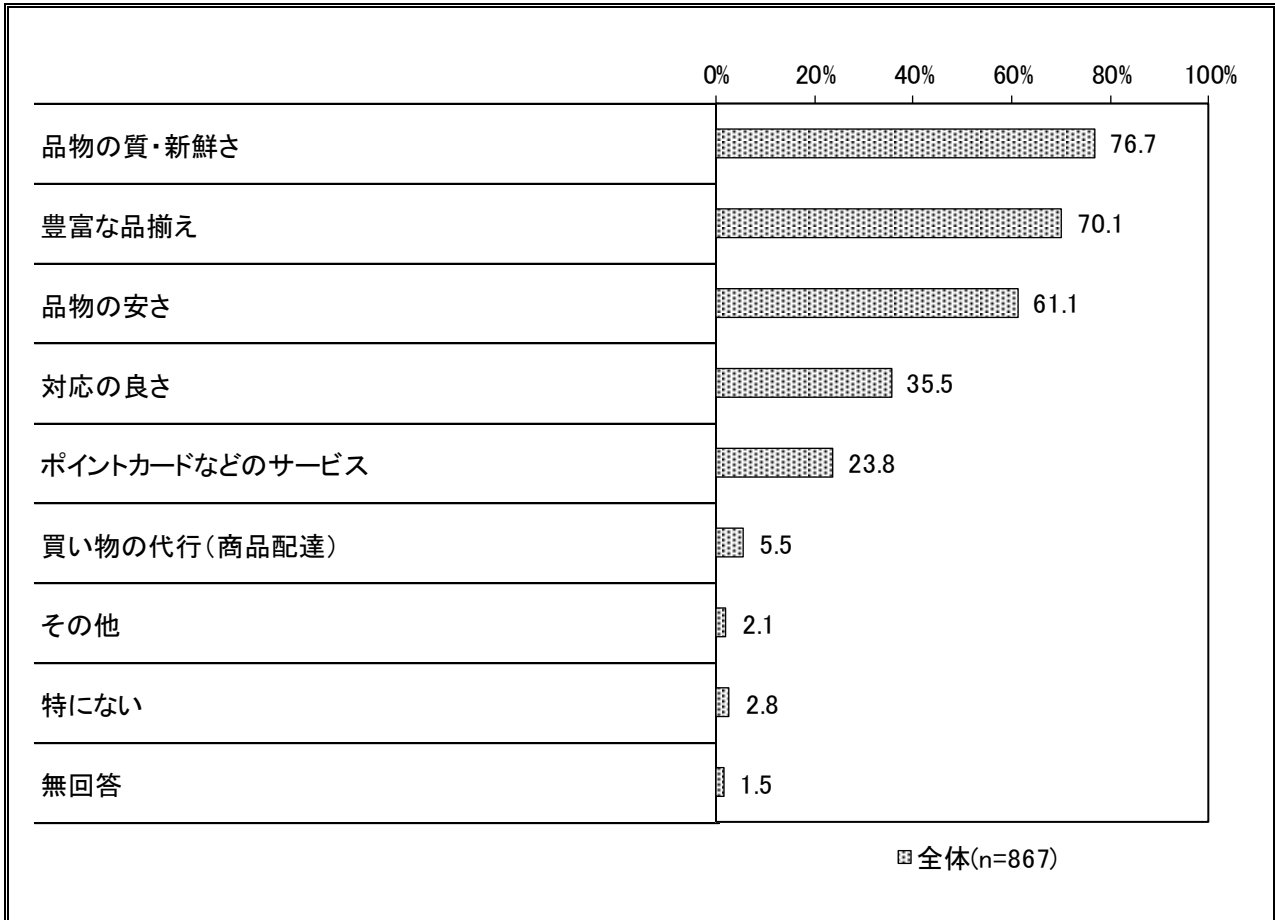
防災対策や災害発生時の役割について聞いたところ、「個人(自助)」の上位3項目は、「ペットの避難先の確保」(36.9%)、「生活用品(おむつや生理用品等も含む)の備蓄」(30.0%)、「食料や飲料水などの備蓄」(26.9%)となっています。

「地域(共助・互助)」の上位3項目は、「消火活動(大規模火災は除く)」(60.3%)、「住民の安否確認」(57.9%)、「負傷者(軽症に限る)のケア」(52.0%)となっています。

「行政(公助)」の上位3項目は、「避難先(自宅以外の避難生活を行う場所)の確保」(62.5%)、「要援護者(介護が必要な高齢者や障害者など)の避難支援」(46.8%)、「食料や飲料水などの備蓄」(44.6%)となっています。

●消費生活

市内の店に望むサービス



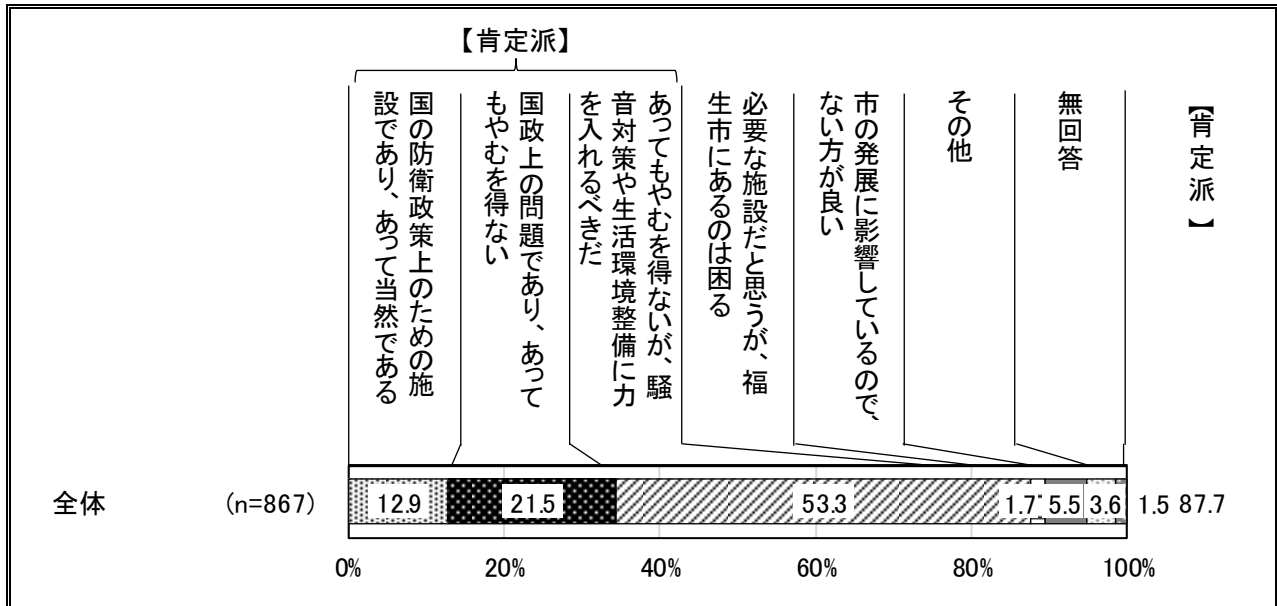
<調査結果>

市内の店に望むサービスについて聞いたところ、「品物の質・新鮮さ」(76.7%)が7割半ばと最も高く、次いで、「豊富な品揃え」(70.1%)が約7割、「品物の安さ」(61.1%)が6割以上となっています。

一方で、「買い物の代行(商品配達)」(5.5%)が1割未満となっています。

●横田基地

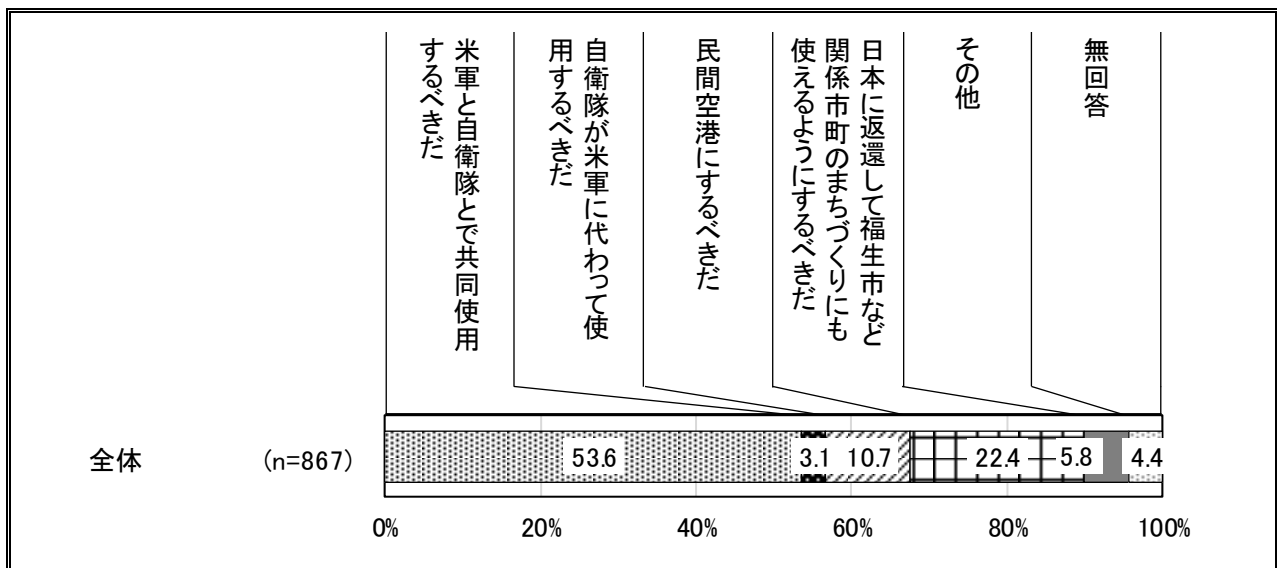
横田基地の賛否



<調査結果>

横田基地の賛否について聞いたところ、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」(53.3%)が最も高く、これと「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」(21.5%)、「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」(12.9%)の3つを合計した【肯定派】(87.7%)が8割後半となっています。

横田基地のあり方

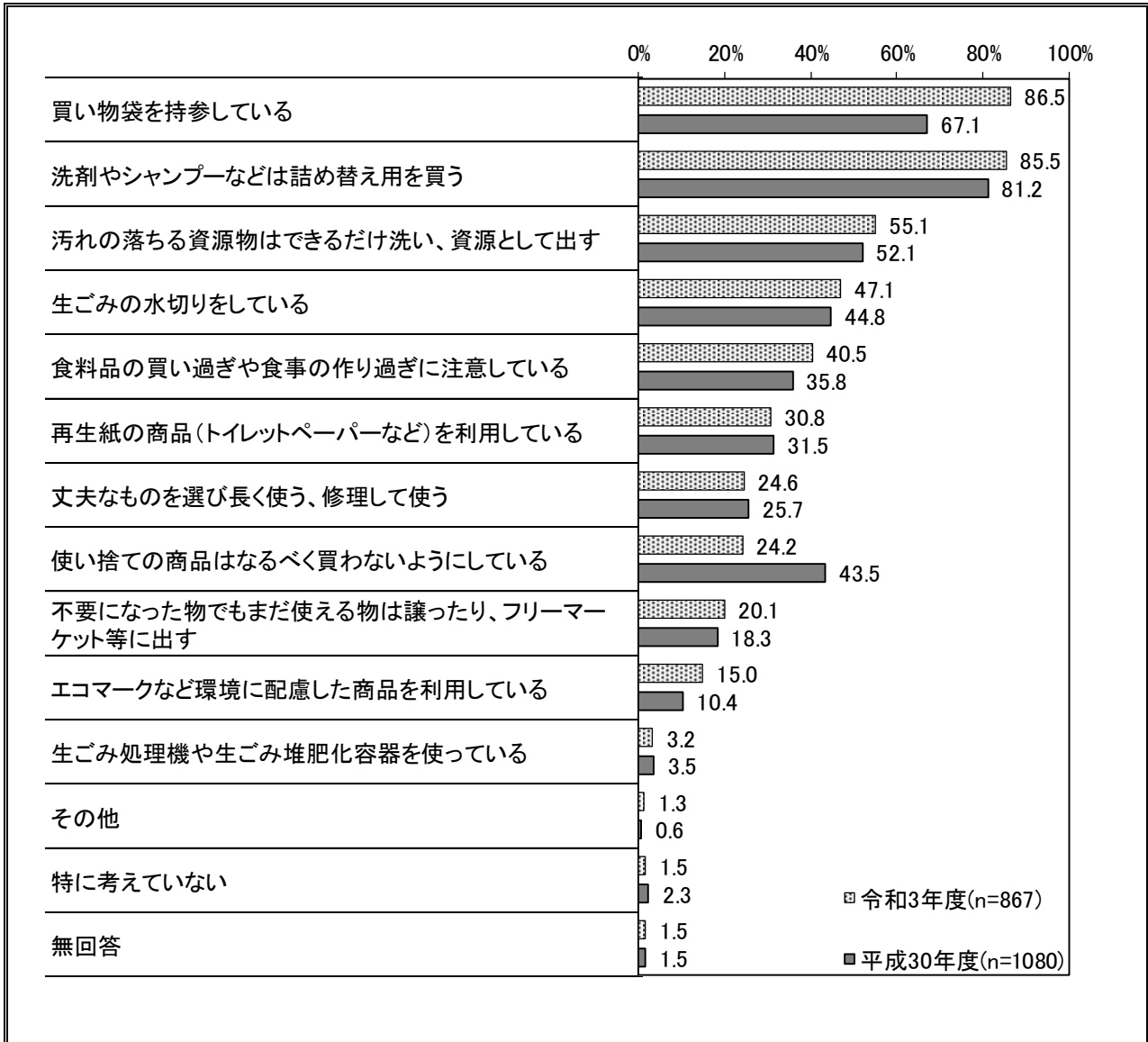


<調査結果>

横田基地のあり方について聞いたところ、「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」(53.6%)が5割半ばと最も高く、次いで、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」(22.4%)、「民間空港にするべきだ」(10.7%)となっています。

●環境問題

ごみ減量やリサイクルに関して心がけていること

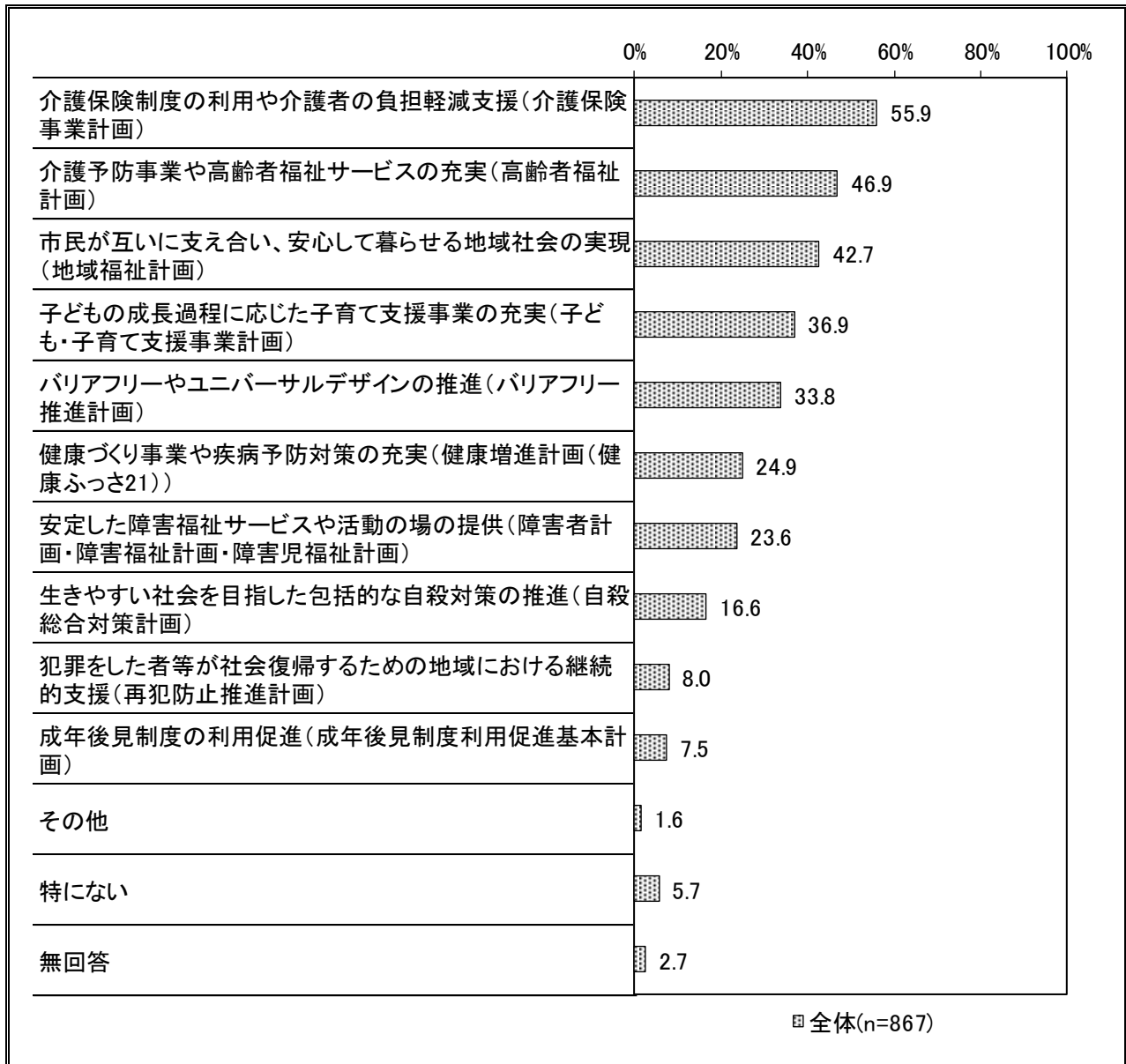


<調査結果>

ごみ減量やリサイクルに関して心がけていることについて聞いたところ、「買い物袋を持参している」(86.5%)、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(85.5%)が8割半ばとなっています。次いで、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源として出す」(55.1%)が5割半ばとなっています。

●福祉社会

福祉保健分野で特に力を入れて欲しい施策（または、計画）

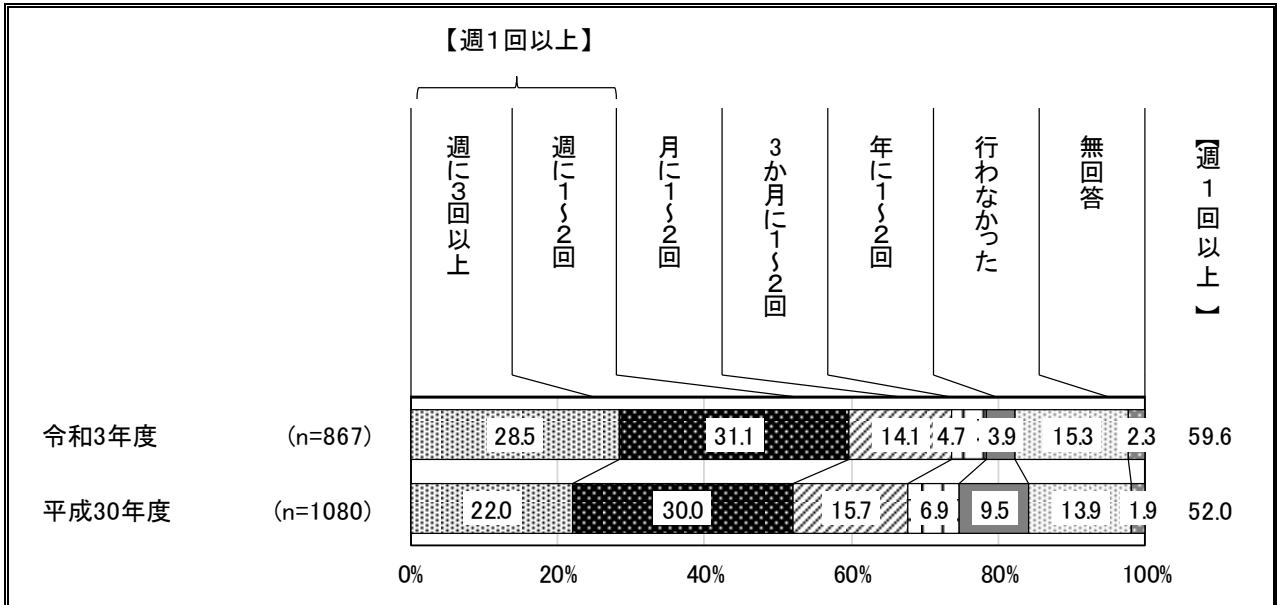


<調査結果>

福祉保健分野で特に力を入れて欲しい施策（または、計画）について聞いたところ、「介護保険制度の利用や介護者の負担軽減支援（介護保険事業計画）」（55.9%）が5割半ばと最も高く、次いで、「介護予防事業や高齢者福祉サービスの充実（高齢者福祉計画）」（46.9%）、「市民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現（地域福祉計画）」（42.7%）が4割を超えています。

●生涯学習

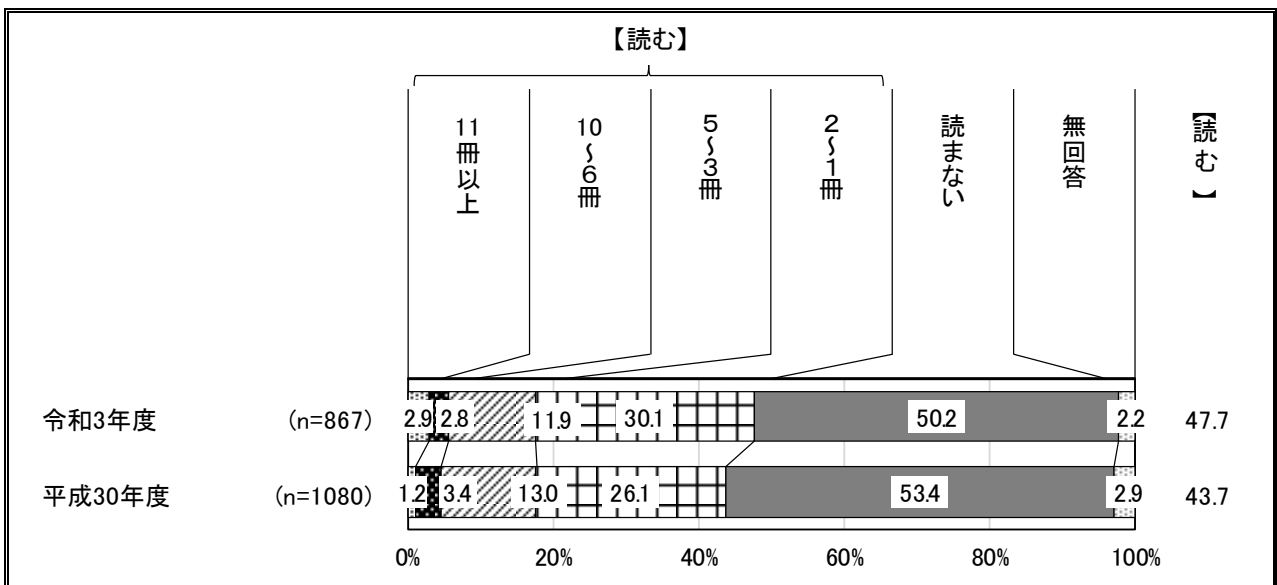
運動やスポーツの実施頻度



<調査結果>

運動やスポーツの実施頻度について聞いたところ、「週に3回以上」(28.5%)と「週に1~2回」(31.1%)を合計した【週1回以上】(59.6%)が約6割となっています。

1か月間の平均読書冊数

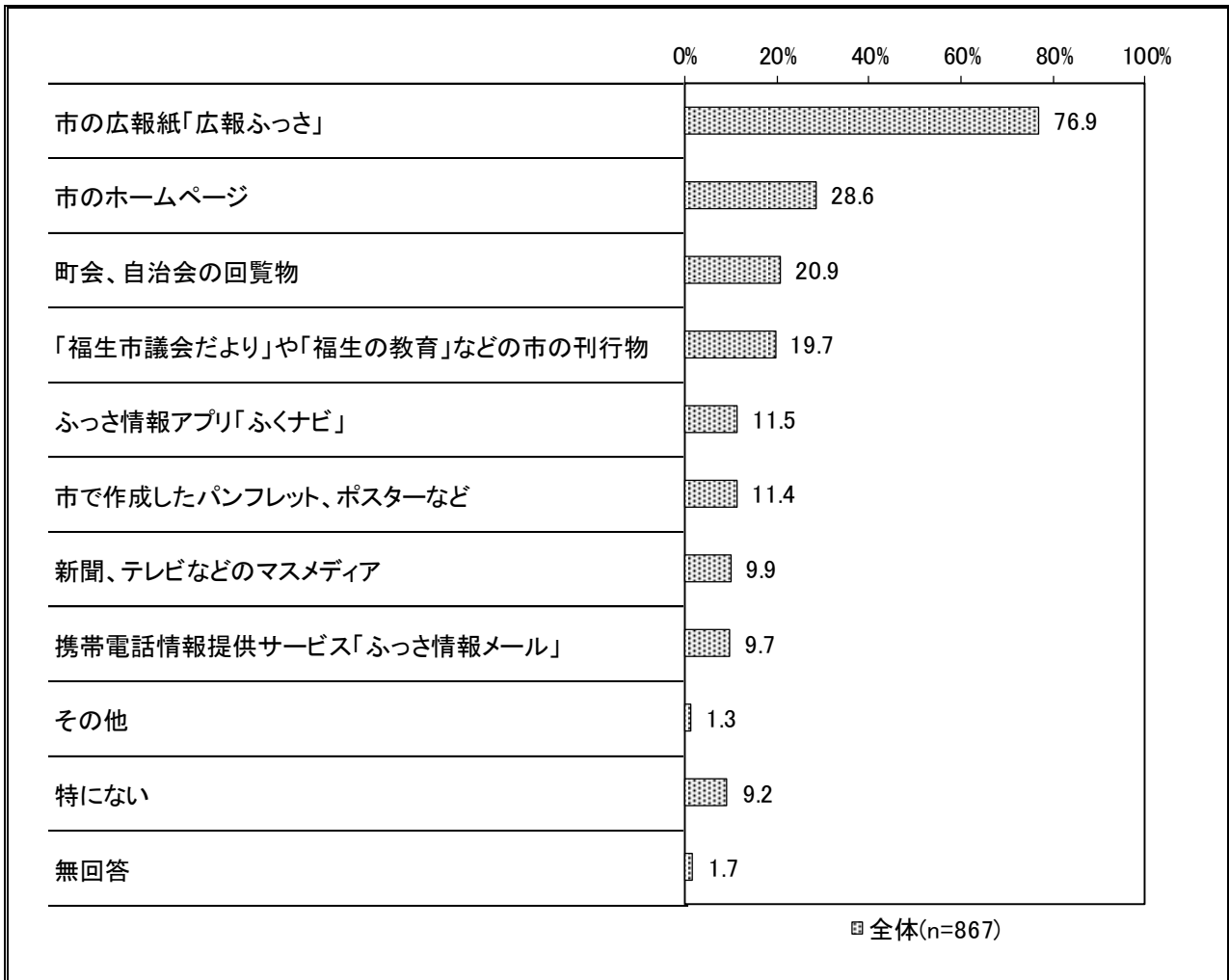


<調査結果>

1か月間の平均読書冊数について聞いたところ、「11冊以上」(2.9%)と「10~6冊」(2.8%)と「5~3冊」(11.9%)と「2~1冊」(30.1%)を合計した【読む】(47.7%)が4割後半となっています。

●市の情報発信

市の情報を得ている媒体

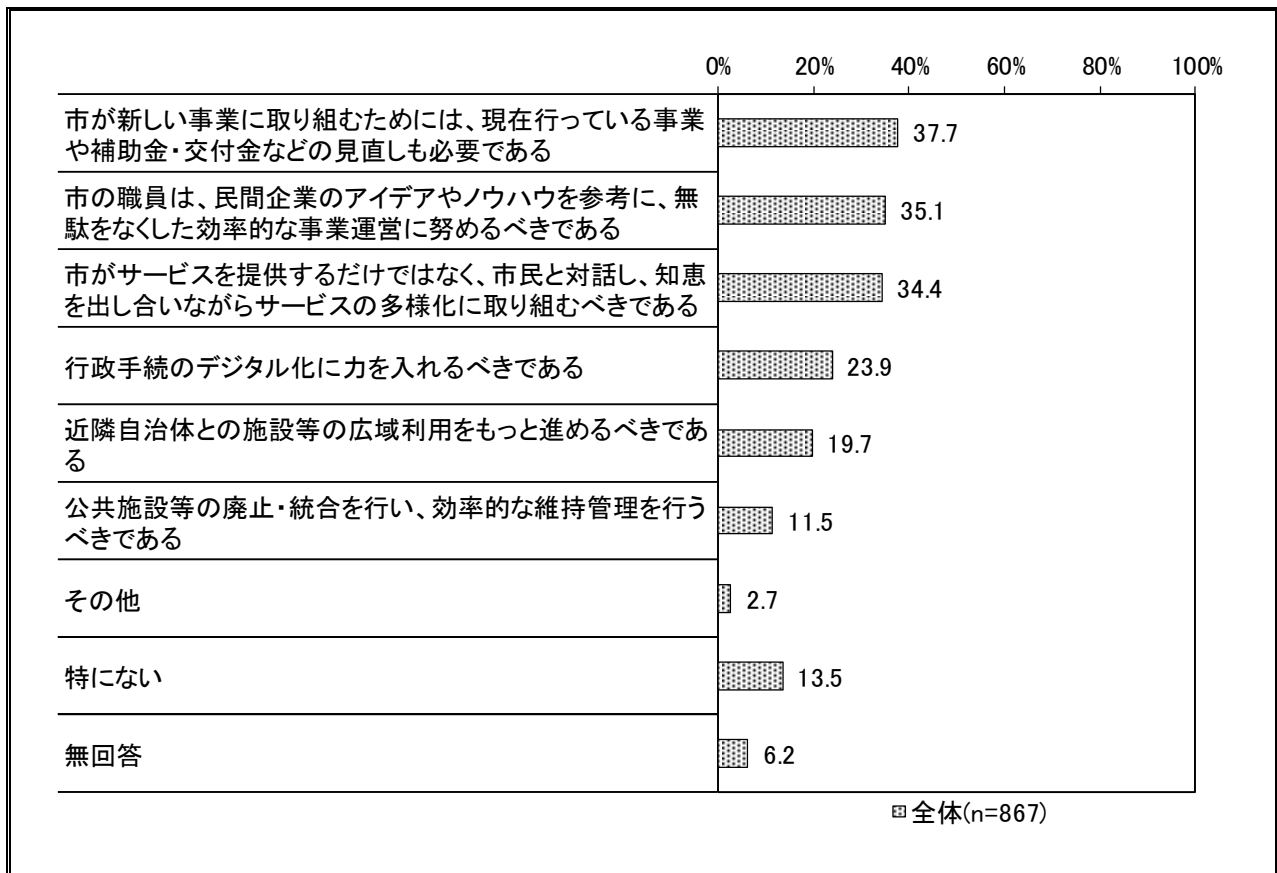


<調査結果>

市の情報を得ている媒体について聞いたところ、「市の広報紙「広報ふっさ」(76.9%)が7割半ばと最も高く、次いで、「市のホームページ」(28.6%)、「町会、自治会の回覧物」(20.9%)が2割を超えています。

●行財政改革

市に求める行財政改革



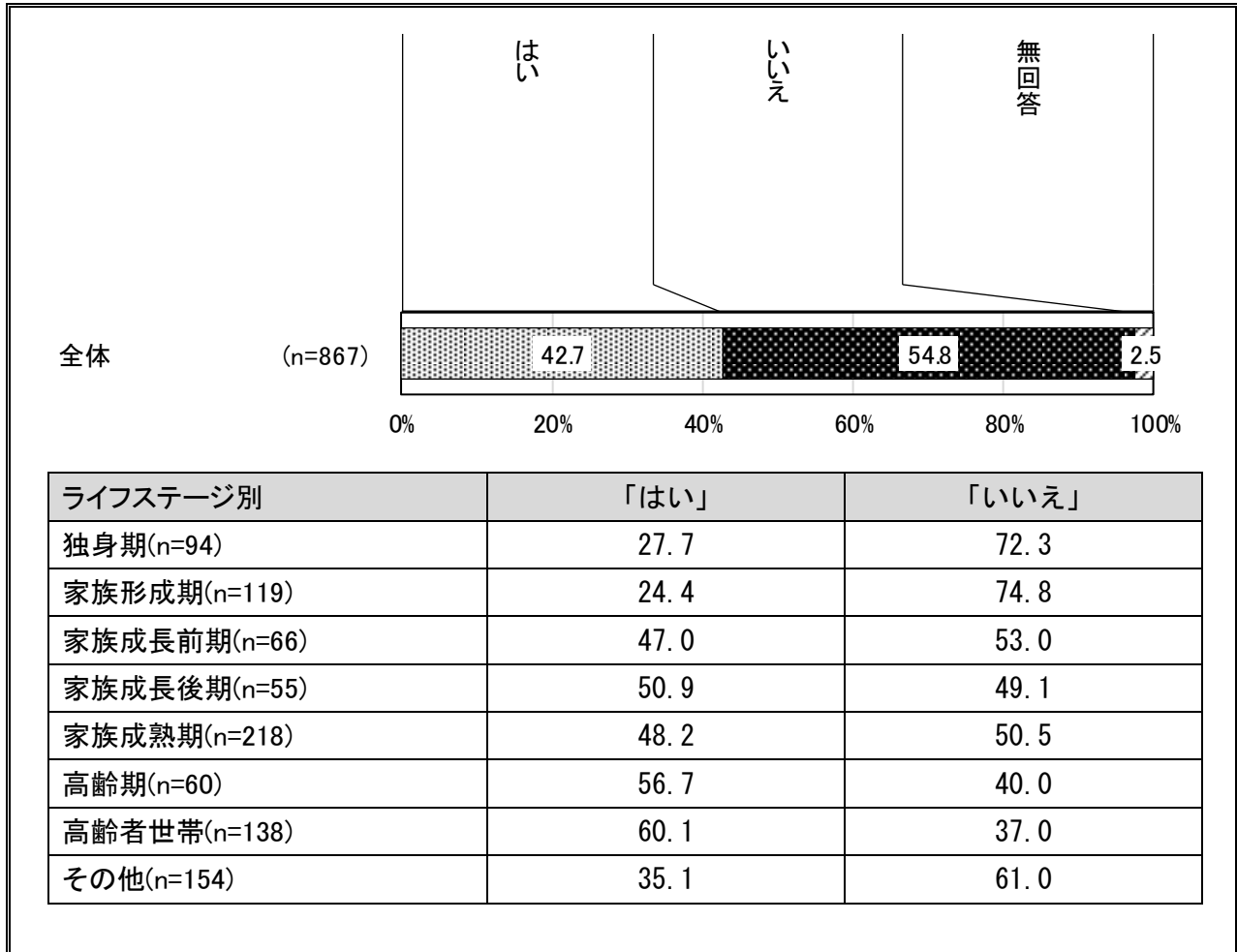
<調査結果>

市に求める行財政改革について聞いたところ、「市が新しい事業に取り組むためには、現在行っている事業や補助金・交付金などの見直しも必要である」(37.7%)が3割後半と最も高く、次いで、「市の職員は、民間企業のアイデアやノウハウを参考に、無駄をなくした効率的な事業運営に努めるべきである」(35.1%)、「市がサービスを提供するだけでなく、市民と対話し、知恵を出し合いながらサービスの多様化に取り組むべきである」(34.4%)が3割半ばとなっています。

「特にない」(13.5%)という回答も1割半ば見られます。

●市民活動

町会・自治会への加入状況



<調査結果>

町会・自治会への加入状況について聞いたところ、「はい」が42.7%、「いいえ」が54.8%となっています。

<属性別調査結果>

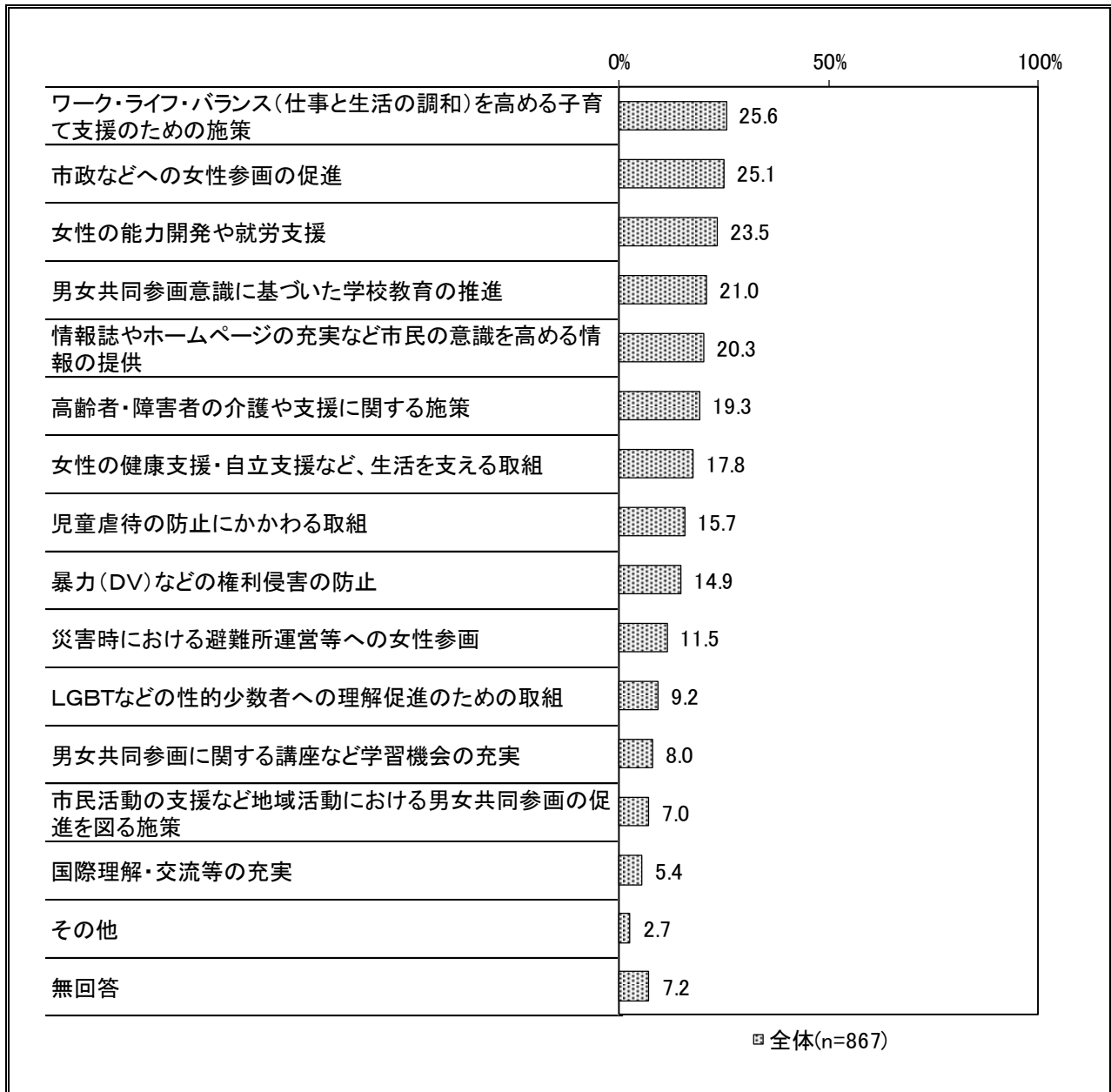
町会・自治会への加入状況についてライフステージ別に見ると、「はい」は高齢者世帯(60.1%)が最も高く約6割となっています。次いで、高齢期(56.7%)、家族成長後期(50.9%)が5割を超えています。一方で、家族形成期(24.4%)が最も低く2割半ばとなっています。次いで、独身期(27.7%)が2割後半となっています。

最も高い高齢者世帯(60.1%)と最も低い家族形成期(24.4%)では35.7ポイント差が開いています。

おおむね、ライフステージが高くなるにつれて「はい」の割合が上昇する傾向にあり、独身期(27.7%)と家族形成期(24.4%)では「はい」の割合が2割台だったのに対し、家族成長前期(47.0%)では4割後半、高齢者世帯(60.1%)では約6割まで上昇しています。

●男女共同参画

男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべき取組

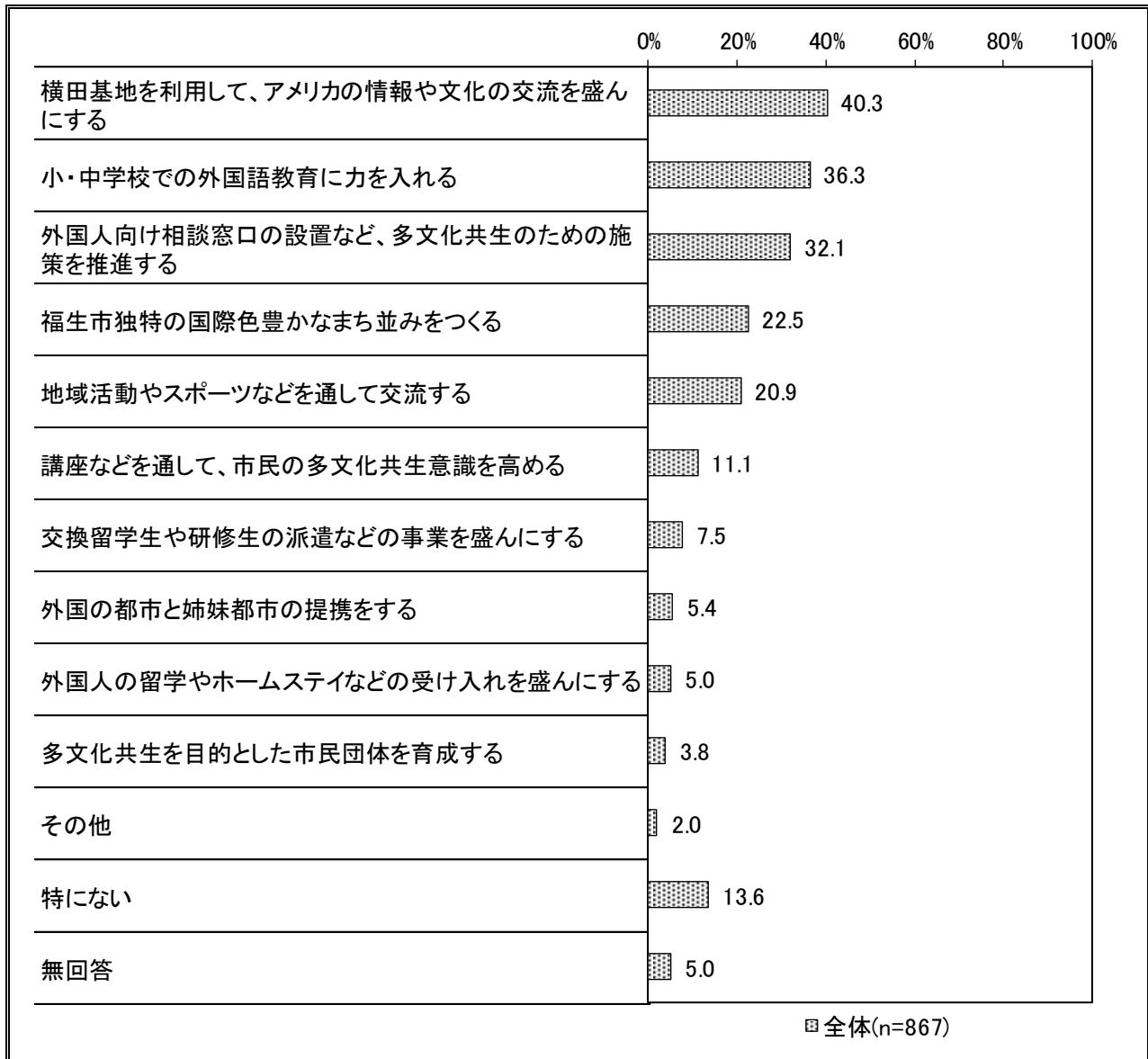


<調査結果>

男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべき取組について聞いたところ、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を高める子育て支援のための施策」（25.6%）、「市政などへの女性参画の促進」（25.1%）、「女性の能力開発や就労支援」（23.5%）が2割半ばとなっています。

●多文化共生

多文化共生の推進に向けて特に力を入れるべき取組



<調査結果>

多文化共生の推進に向けて特に力を入れるべき取組について聞いたところ、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」(40.3%)が約4割と最も高く、次いで、「小・中学校での外国語教育に力を入れる」(36.3%)、「外国人向け相談窓口の設置など、多文化共生のための施策を推進する」(32.1%)が3割を超えています。

福生市 市政世論調査報告書<概要版> 令和3年11月発行
 発行 福生市 企画財政部 秘書広報課
 所在地：〒197-8501 東京都福生市本町5番地
 TEL：042-551-1511 (代表)
 URL：https://www.city.fussa.tokyo.jp/

再生紙を利用しています。
 この報告書はベジタブルオイルインキを使用しています。

